## 5 行列のブロック分割/正則行列の解答例

演習  $\mathbf{5.1}$  (1) k に関する帰納法で示す. k=1 の場合は明らか. 以下, k>1 のとき, k-1 まで成立すると仮定して k の場合を示す. 仮定により

$$\begin{pmatrix} aE_m & A \\ O & aE_n \end{pmatrix}^{k-1} = \begin{pmatrix} a^{k-1}E_m & (k-1)a^{k-2}A \\ O & a^{k-1}E_n \end{pmatrix}$$

だから,

$$\begin{pmatrix} aE_{m} & A \\ O & aE_{n} \end{pmatrix}^{k} = \begin{pmatrix} aE_{m} & A \\ O & aE_{n} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a^{k-1}E_{m} & (k-1)a^{k-2}A \\ O & a^{k-1}E_{n} \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} (aE_{m})(a^{k-1}E_{m}) + AO & (aE_{m})((k-1)a^{k-2}A) + A(a^{k-1}E_{n}) \\ O(a^{k-1}E_{m}) + (aE_{m})O & O(((k-1)a^{k-2}A)) + (aE_{n})(a^{k-1}E_{n}) \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} a^{k}E_{m} & ka^{k-1}A \\ O & a^{k}E_{n} \end{pmatrix}.$$

よって、kの場合も成り立つ.

$$(2) \left(\begin{array}{ccccc} 32 & 0 & 80 & 240 \\ 0 & 32 & 0 & 160 \\ 0 & 0 & 32 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 32 \end{array}\right)$$

注意 1. 細かい点ですが、上記の (1) に出題ミスがありました. a=0, k=1 のときは、 $a^{k-1}$  の部分が  $0^0$  となって定義できません. だから、上記の証明においても厳密には a=0 の場合を特別扱いする必要があります (a=0) の場合はまず k=2 の場合を示してから帰納法を用いるなど).

実は去年担当した「線形代数 I 演習」と同じ問題を出題したのですが、この点を忘れていたので、今年も同じ注意書きを書く破目になってしまいました・・・

演習 5.2  $A^2=A$  かつ A が正則行列ならば A=E となることを示せば良い. A が正則行列ならば逆行列  $A^{-1}$  が存在するので,  $A^2=A$  の両辺に左から (右からでもよい)  $A^{-1}$  をかけると,

(左辺) = 
$$A^{-1}A^2 = (A^{-1}A)A = EA = A$$
, (右辺) =  $A^{-1}A = E$ .

よって, A = E を得る.

演習 5.3 (1) 
$$\begin{pmatrix} A^{-1} & -A^{-1}CB^{-1} \\ O & B^{-1} \end{pmatrix}$$
 (2)  $\begin{pmatrix} O & B^{-1} \\ A^{-1} & O \end{pmatrix}$ 

演習 5.4 (1) 
$$\begin{pmatrix} c_{11} & c_{12} \\ c_{21} & c_{22} \end{pmatrix}$$
  $\begin{pmatrix} 3 & 7 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$  =  $\begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$   $\Leftrightarrow$   $\begin{cases} 3c_{11} + c_{12} = 1 \\ 7c_{11} + 2c_{12} = 0, \end{cases}$   $\begin{cases} 3c_{21} + c_{22} = 0 \\ 7c_{21} + 2c_{22} = 1. \end{cases}$ 

これは解  $c_{11}=-2, c_{12}=7, c_{21}=1, c_{22}=-3$  をもつ. そこで、 $\begin{pmatrix} -2 & 7 \\ 1 & -3 \end{pmatrix}$  が実際 逆行列になっているかどうかを確かめてみると、

$$\left(\begin{array}{cc} 3 & 7 \\ 1 & 2 \end{array}\right) \left(\begin{array}{cc} -2 & 7 \\ 1 & -3 \end{array}\right) = \left(\begin{array}{cc} 3 & 7 \\ 1 & 2 \end{array}\right) \left(\begin{array}{cc} -2 & 7 \\ 1 & -3 \end{array}\right) = \left(\begin{array}{cc} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{array}\right)$$

だから、実際逆行列になっている。よって、与えられた行列は、逆行列  $\left(\begin{array}{cc} 3 & 7 \\ 1 & 2 \end{array}\right)^{-1}=$   $\left(\begin{array}{cc} -2 & 7 \\ 1 & -3 \end{array}\right)$  をもち、正則であることがわかる。

(2) 上記と同様にすれば、逆行列  $\left(egin{array}{cc}5&2\\2&1\end{array}
ight)^{-1}=\left(egin{array}{cc}1&-2\\-2&5\end{array}
ight)$  をもち、正則であることが分かる。

$$(3) \begin{pmatrix} c_{11} & c_{12} \\ c_{21} & c_{22} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \Leftrightarrow \begin{cases} c_{11} + 2c_{12} = 1 \\ 2c_{11} + 4c_{12} = 0, \end{cases} \begin{cases} c_{21} + 2c_{22} = 0 \\ 2c_{21} + 4c_{22} = 1. \end{cases}$$

これは解をもたない (例えば,  $c_{11}+2c_{12}=1$  ならば  $2c_{11}+4c_{12}=2$  となるはずだから  $2c_{11}+4c_{12}=0$  は満たさない). よって  $\begin{pmatrix}1&2\\2&4\end{pmatrix}$  には逆行列は存在せず, 非正則である.

(4) 正則行列である. 演習 5.3(1) により、

$$\begin{pmatrix} 3 & 7 & 1 & 0 \\ 1 & 2 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 5 & 2 \\ 0 & 0 & 2 & 1 \end{pmatrix}^{-1} = \begin{pmatrix} -2 & 7 & 16 & -39 \\ 1 & -3 & -7 & 17 \\ 0 & 0 & 1 & -2 \\ 0 & 0 & -2 & 5 \end{pmatrix}.$$

演習 5.5  $((ii) \Rightarrow (iv))$   $ad - bc \neq 0$  のとき、

$$B = \frac{1}{ad - bc} \left( \begin{array}{cc} d & -b \\ -c & a \end{array} \right)$$

とおくと, AB = BA = E となり, A に逆行列  $A^{-1} = B$  が存在することが分かる.

$$((iv) \Rightarrow (iii)) \ A^{-1} = \begin{pmatrix} c_{11} & c_{12} \\ c_{21} & c_{22} \end{pmatrix} \succeq \delta \zeta .$$
 
$$\begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} c_{11} & c_{12} \\ c_{21} & c_{22} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \Leftrightarrow \begin{cases} ac_{11} + bc_{21} = 1 \\ cc_{11} + dc_{21} = 0, \end{cases} \begin{cases} ac_{12} + bc_{22} = 0 \\ cc_{12} + dc_{22} = 1 \end{cases}$$

 $\Leftrightarrow c_{11}a + c_{21}b = e_1, \quad c_{12}a + c_{22}b = e_2$  だから,  $e_1, e_2$  が a, b の線形結合で表わされることが分かり, 従って, a, b が  $\mathbb{R}^2$  を張ることが分かる.

[別証明の例]  $((iv)\Rightarrow(ii))$   $B=\begin{pmatrix} d&-b\\-c&a\end{pmatrix}$  とおくと,  $AB=(\det A)E$  となる. ここで  $\det A=0$  であったとすると AB=O となるが、この両辺に左から  $A^{-1}$  をかけると B=O となり、a=b=c=d=0 であることになってしまう。これは A=O を意味するが、それでは A が正則行列ではないことになってしまい、矛盾が生じる。よって  $\det A\neq 0$ .

 $((iv) \Rightarrow (i)) c_1 \mathbf{a} + c_2 \mathbf{b} = \mathbf{0} (c_1, c_2 \in \mathbb{R})$  であったとする. 式を行列で書き直すと

$$A\left(\begin{array}{c}c_1\\c_2\end{array}\right) = \left(\begin{array}{c}0\\0\end{array}\right)$$

を得るが、この式の両辺に左から  $A^{-1}$  をかけると  $c_1=c_2=0$  が分かる. よって  $m{a}, m{b}$  は線形独立である.